

歴史的文化遺産の景観復原 - 島根県を事例として -

Landscape restoration of historical cultural heritage : in the case of Shimane Prefecture

船杉 力修

FUNASUGI Rikinobu

< 講演概要 >

本研究は、わが国でも有数の伝統的な文化景観が残存する島根県を事例として、絵図を中心に、文化遺産の景観復原を行なうものである。島根大学を中心に、産官学で研究を進め、世界遺産登録を目指す石見銀山、全国有数の観光地である出雲大社、城下町松江の絵図をデジタル化して、景観を復原し、地域の社会・経済構造を明らかにしてきた。研究成果は博物館での展示、歴史的な文化景観を活かしたまちづくりなどへの活用が図られている。

1. はじめに

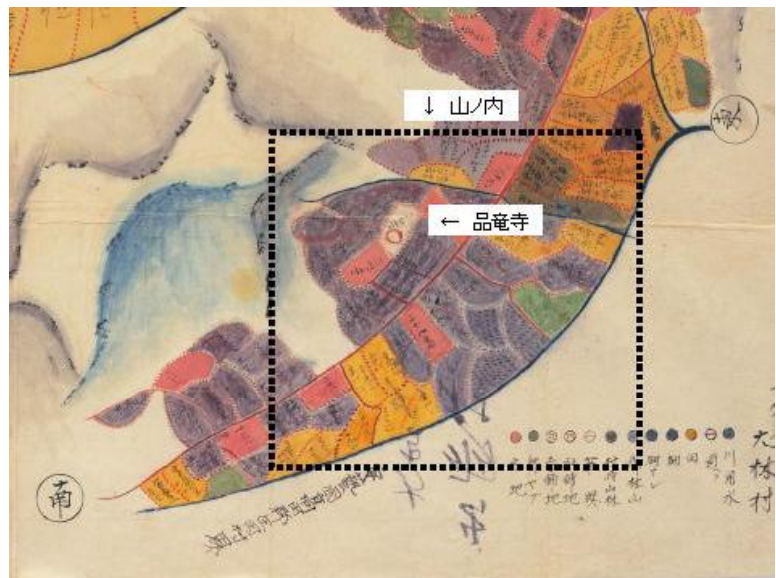
本研究は、平成 17・18 年度島根大学プロジェクト研究推進機構の萌芽研究「島根県における歴史的な文化遺産の景観復原に関する学際的研究 - 石見銀山・出雲大社・松江を中心として -」を中心に、島根県・大田市・出雲市・大田市などの行政機関、株式会社広工など産官学共同で研究を実施してきた。景観を復原する素材として、広島大学図書館所蔵の「中国五県土地・租税資料文庫」のうち明治初期作成の地籍図を使用した。平成 18 年度末の時点で、石見銀山（鉾山町）、出雲大社（門前町）、松江（城下町）の絵図を撮影し、絵図のデジタル化を行なった。デジタル化に並行して対象地域の現地調査、絵図の解読、記載内容の分析、古文書の調査などを進めてきた。伝統的な文化遺産の景観の復原によって、地域の社会・経済構造を読み解いてきた。

2. 文化景観の復原

1) 鉾山町（石見銀山）

石見銀山周辺の絵図を検討した。「大林村（現在邑智郡邑南町）絵図」では、石見銀山とともに、銀山奉行大久保長安により採掘された久喜鉾山の景観が初めて明らかとなった。浄土真宗品竜寺（山号：銀吹山）を中心に、多くの採掘場があり、「山ノ内」が形成されるなど、鉾山集落の景観を復原することができた（写真 1）。

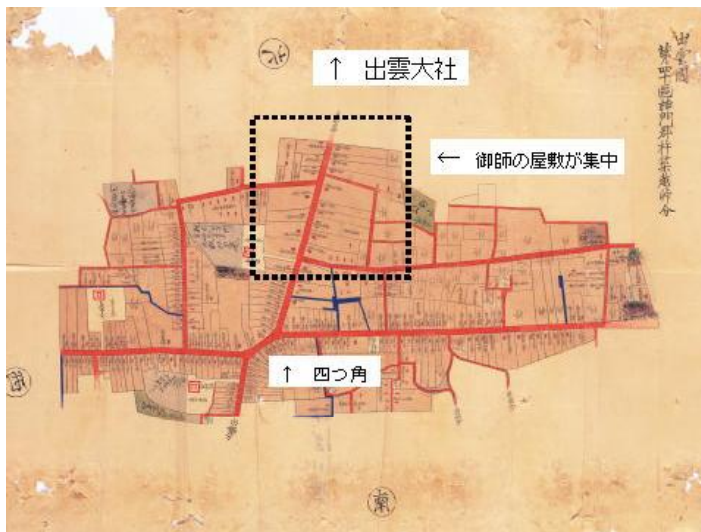
写真 1



2) 門前町杵築

写真 2

出雲大社の門前町杵築では、出雲大社に近接する越峠の絵図が確認された。出雲大社の門前集落の景観が詳細に明らかになるのは初めてである。道が交差する四つ角を中心に集落が形成されている。屋敷はいずれも短冊状に整然と並んでいる。出雲大社の門前に向かって、参詣者を迎え、下級神官であった御師の屋敷が建ち並んでおり、他の屋敷に比べても広がっている。門前町杵築では、門前町の発展に大きく貢献した御師が社会的、経済的地位が高かったと考えられる（写真 2）。今後出雲大社周辺のまちづくりに活用への展開が考えられる。



3) 城下町松江

写真 3

城下町南部の町人地区白潟の町絵図を検討した。特に絵図のなかに借家まで記載されているのは全国的にも珍しい（写真 3）。奥出雲地方のたたら製鉄経営者桜井家などが広大な屋敷を所有していた。江戸後期の町絵図と比較すれば、明治維新をはさんで城下町がどのように変容をとげるのかを明らかにできる。また GIS、GPS を用いて現代地図との重ね合わせも進めている。



3. おわりに - 調査成果の活用

本研究を通して、明治初期の絵図が伝統的な文化景観の復原に有効な史料であることが明らかとなった。調査成果は様々な方向で活用が始まっている。平成 17 年度には島根大学政策的配分経費「学生・地域がともに自立・挑戦するための課題探求的教育プログラムの実施」が法文学部で採択され、附属図書館で絵図展を実施した。調査成果を展示し、展示準備・運営に学生が関わった。今後は世界遺産登録（大田市）や博物館の開設準備（松江市）にむけて行なわれている基礎的調査に活用するとともに、伝統的景観の保全、まちづくりなどの地域活性化に活用する。教育委員会との連携により、児童生徒や住民の歴史的遺産に対する理解を深める活動に貢献できる。このように文化景観を復原した研究成果は教育や観光に活用でき、将来は国内外の文化遺産を有する観光地への展開が考えられる。